

# あしよろ・ハードサポート通信

2月26日に「エサ給与と乳量・乳成分」について、ハードサポートの村上を講師に勉強会を開催し、20名ほどの方々のご参加をいただきました。

## ◆ 乳量に応じたエサの給与量とエサの増やし方

泌乳牛の栄養は、生産量や妊娠の有無などによって要求量が変わります。多くの酪農家さんは、乳量の多い牛には濃厚飼料を多く、乳量が下がってきたら濃厚飼料を減らす、といった調整をしています。下の表は、牧草主体・分離給与のときの乳量と濃厚飼料給与量のイメージです。この「濃厚飼料」には配合だけではなく、圧ペントウモロコシやビートパルプなども含まれます。

### 乳量に応じたエサの給与量のイメージ

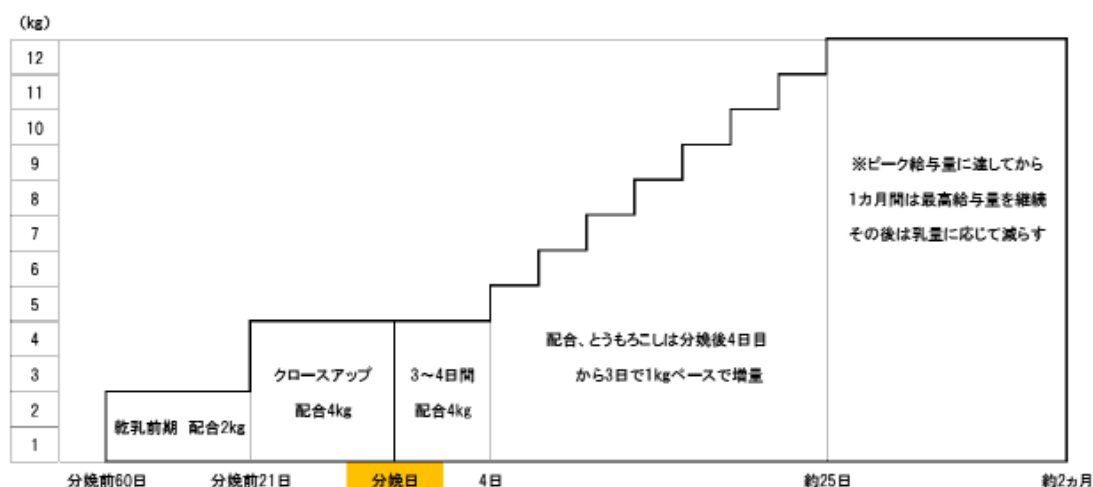
乳量	濃厚飼料 給与量
40kg	16kg
35kg	14kg
30kg	12kg
25kg	10kg
20kg	8kg

※デントコーン10kgにはとうもろこし子実が1.0~1.5kg含まれる  
※放牧草を採食している場合、濃厚飼料を2.0~3.0kg減らすことができる(日中放牧の場合)

デントコーンサイレージ 10 kgにはトウモロコシの実の部分が見なすため、デントコーン給与時には、その分の濃厚飼料を節約することができます。

日中放牧で放牧草をしっかり採食できている場合も同様に節約が可能です。

### 分娩後のエサの増やし方(分離給与)



一般的なめやすとして、乾乳前期は配合 2kg、乾乳後期で 4 kg、分娩後 3~4 日間は分娩前と同じ量を与えます。その後、配合・トウモロコシは 3 日で 1 kg 増のペースで、

分娩後約 25 日目までに最大給与量へと増やしていきます。

ピーク給与量に達してから一か月間は、例え乳量減があってもその給与量で進め、分娩後 60 日目以降は乳量に応じて給与量を減らしていきます。

#### ◆ 分離給与でのポイント

\* 長さが長いものや、粒子の大きいものから順番に給与します。

乾草→ 牧草サイレージ→ デントコーン→ ビートパルプ→ 配合飼料 etc.

理由：粒子の大きいものから給与すると、ルーメン内での引っかかりが良くなり、消化率が向上するため。

\* 濃厚飼料はなるべく 1 日 4 回以上に分けて給与します。

① 朝搾乳前→ ② 朝搾乳後→ ③ 昼→ ④ 夜搾乳前→ ⑤ 夜搾乳後 etc.

理由：ルーメン性状が安定し、エサの利用効率が上がるため。

#### ◆ TMR 給与でのポイント

\* 泌乳牛の TMR の粗飼料割合は、乾物中 40%以上を目標にします。

\* TMR の栄養濃度は、乳量レベルや繁殖成績によって決定します。

理由：乳量レベルに合ったエネルギーを供給し、タンパク質の過剰給与を避けるため。  
泌乳後半での過肥牛が増えるようであれば、群分けが必要です。

\* TMR の粗飼料は、十分に反芻を誘起し、なおかつ選び喰いさせない長さにします。

ロールサイレージなどの長物は 5 cm 以下に切断します。

\* サレージ水分の変化で乾物給与量の変動するため、水分含量に注意が必要です。

#### ◆ ボディコンディション

\* ボディコンディションは、牛へのエネルギー供給のめやすになります。

2.25 以下は痩せすぎ…繁殖成績の低下、乳量が持続しない、健康度の低下

3.75 以上は太りすぎ…分娩後の周産期疾病の大きな原因になる

ケトーシス、第四胃変位、後産停滞、低カルシウム血症

⇒ 痩せすぎず、太りすぎないようなイメージでエサ給与を

【勉強会のご案内】.....

・ 3 月 23 日（水）13:30 より、アルタジャパン(株)細野淳氏を講師に「北米におけるゲノムの活用方法」について勉強会を開催します。「ゲノム」と聞くと難しそうだし、「遺伝改良」と聞くと共進会をイメージするかもしれませんが、牛を健康に、効率よく乳生産を伸ばしていきたい一般の酪農家さんにおいても、大きな可能性が広がる分野になってきました。当日は夜 19 時半より懇親会もあります。ご参加をお待ちしています。